

検証シートの見方と検証のポイント

資料 2

第 2 期総合戦略施策・プロジェクト検証シート（令和 4 年度実績を踏まえて）

施策 1-1 水産・食産業の競争力強化

主管課＝水産課

重要業績評価指標	単位	目標 (R06)	基準 (R01)	実績 (計画期間)					達成率 (対R06)	担当課
				R02	R03	R04	R05	R06		
①浅海水産物生産量	単	t	7,600	5,648	5,489	5,778	-		76.0	←水産課
②浅海水産物生産額	単	百万円	2,900	2,067	1,903	2,351	-		81.1	←水産課
③新規漁業就業者数	累	人	45	6	11	15	21		46.7	←水産課
④新たな水商工連携事業数	累	件	7	1	0	4	5		71.4	←産業政策室
⑤大船渡市魚市場水揚量	単	t	50,000	35,935	34,218	23,955	28,202		56.4	←水産課
⑥大船渡市魚市場水揚額	単	百万円	7,000	5,397	6,091	4,265	5,578		79.7	←水産課
⑦水産食料品製造品出荷額	単	億円	210							

※⑦の数値は、1年後に取りまとめられることから、目標値

重要業績評価指標に関する数値等を記載しています。「実績値」は、単年度で捉えるものと累計で捉えるものの2種類あります。「達成率」は目標値(R06)に対する直近(R04)の実績値の達成割合を算出したものです。これらにより、施策の計画内容がどの程度進捗したか等がわかります。

■主要プロジェクトの重要業績評価指標、取組実績、成果

プロジェクト	重要業績評価指標等	単位	目標 (R06)	基準 (R01)	実績 (計画期間)					達成率 (対R06)	(担当課)
					R02	R03	R04	R05	R06		
111 水産加工原魚等確保安定化	①情報交換等開催回数	累	回	10	0	2	4				←水産課
	②実証試験数	単	件	5	0	4	5				
	<p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 水産多面的機能発揮対策事業による磯焼け対策として、吉浜漁協が行う... 市内の漁業協同組合等と設立した新規養殖研究会において、新規養殖の参考として、市内で行われているアサリ、ボニックスによるチョウザメ養殖とレタス水耕栽培施設の視察を実施 盛川漁協、越喜来漁協及び綾里漁協が行う新規養殖試験に対して補助金を交付 (盛川漁協：トラウト陸上養殖、越喜来漁協：アサリ養殖、綾里漁協：ウニ蓄養) 越喜来漁協が、県の委託調査事業により、漁港等でウニの蓄養試験を実施。市においても生殖腺調査(身入り調査)や試験販売先の紹介等に協力 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各漁協において新規養殖が試験的に行われており、技術確立に向けたデータが蓄積された。 特に盛川漁協のトラウトの陸上養殖、沿海地区漁協のウニの蓄養については、試験販売による採算性の検証も行われており、事業化に向けた検討が重ねられている。 										
112 漁業担い手育成・総合サポート	①意欲ある浜の担い手支援事業受給者数	累	人	20	6	18	26	30		150.0	←水産課
	②正組員数	単	人	1,650	1,729	1,682	1,617	1,585		96.1	←水産課
	<p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 「意欲ある浜の担い手支援事業」により、新規漁業者への就業支援を実施。令和4年度は前年度から同事業を活用している4人に対して支援した。 大船渡市漁業就業者確保育成協議会が、新聞や漁業就業支援フェア等を活用し、就業情報を発信した。 令和4年度は4件の就業相談があり、市内漁業協同組合と就業希望者との受入れ調整やいわて水産アカデミー、就業支援制度を紹介した。 <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 安定収入が見込めない就業当初の新規漁業者に対して、漁業用資器材の調達などの初期費用や生活費等を補助することにより、円滑な着業が図られた。 4件の就業相談のうち1件については、いわて水産在、ワカメ養殖漁業者のもとで技術を習得中。 										
113 技術応用・生産性向上推進	①産学官共同研究件数	累	件	19						7.4	←商工課
	②研究開発目標達成件数	累	件	20	6	4	6	8		40.0	←商工課
	③保有設備情報提供事業者数	累	社	30	0	0	0			0.0	←商工課
<p>【取組実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市内事業者等が北里【令和4年度実績】(北里大学) アロピとウニの生育を促すバイオマス飼料の有効活用法の開発(目標達成) (岩手大学) 難飼育魚向け精密凍結CAS餌料-イサダ等の市場優位性確保に向けた既存凍結餌料との品質比較分析試験(目標達成) <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 本事業により、新技術・新商品開発など事業化を目指した研究が進められており、市内事業者の研究開発機能強化、技術力の向上に寄与している。 											

施策にぶら下がるプロジェクトについて、令和4年度の取組に係る「取組実績」「成果」を赤字で追記しています。事後評価として「この成果が妥当であるか、記載漏れはないか等」を検証します。

法令等の改正や指標そのものの消滅等により、やむなく重要業績評価指標を変更する場合、担当課が理由を付して、新たな指標等を記載しています。

商工課：提供された情報の活用イメージの実現性が不透明であり、削除

プロジェクト	重要業績評価指標等	単位	目標 (R06)	基準 (R01)	実績 (計画期間)					達成率 (対R06)	(担当課)	
					R02	R03	R04	R05	R06			
114 ナマコ多用途 利用ビジネス 創出	①ナマコ水揚量	単	t	10	5	10	-	15			150.0	←水産課
	②ナマコ製品製造事業者数	累	社	3	1	1	1	3			100.0	←産業政策室
	③ナマコ製品開発数	累	品	5	2	2	2	4			80.0	←産業政策室
	【取組実績】 ・関係者との意見交換や、各種補助事業等の情報提供を実施 ・事業者、金融機関、市の3者で、事業の進捗確認、支援体制の調整のため、ラウンドテーブルを実施 ・関係者と市内におけるナマコの陸上養殖の可能性等について検討 ・民間事業者が主導し、ナマコサボニン成分を含む製品の原材料を供給 【成果】 ・ナマコエキスによる「口腔保健用ゼリー」の 特定保健用食品の認定 に向けて、事業者が臨床試験を行い、その結果を受けて商品の改良を実施し、新型コロナウイルス感染症の状況が落ちつき次第、次の臨床試験に臨む体制が整った。 ・複数の事業者の連携により、商品開発に向けた協議が進んだ。 ・市内事業者が生産したナマコサボニンを原材料とする 新商品の製造販売を市外事業者において開始した。											
115 ウニ蓄養事業 化	①ウニ蓄養実施場所数	累	箇所	4	0	3	3	3			75.0	←水産課
	②蓄養ウニ水揚量	単	t	1	0	0	0.5	2.2			220.0	←水産課
	【取組実績】 ・吉浜漁協が、水産多面的機能発揮対策事業の一環として、北里大学と連携し、根白漁港内でウニの蓄養試験を実施 ・越喜来漁協は岩手県の委託事業等により、漁港等でウニの蓄養試験を実施 ・綾里漁協が市の補助金を活用して、漁港内の蓄養池でウニの蓄養試験を実施 ・越喜来漁協及び綾里漁協では、身入りの向上を確認できたことから、 殻付きでの試験販売も実施 ・人工飼料の開発に向け 試作した海中投下型ウニ用飼料 を用いて、 痩せウニの肥育が可能であるか実証試験を継続的に実施 ・人工飼料の開発や海中養殖の方法など、事業化に向けた関係者との意											

主要プロジェクトの進捗、施策の重要業績指標の実績等をもとに総括を記載しています。「この総括が妥当であるか、追加項目がないか等」を検証します。

取組の状況や成果等を踏まえた結論としての進捗度を記載しています。事後評価として「この進捗度が妥当であるか等」を検証します。

■総括（主要プロジェクトの進捗、施策の重要業績指標の実績等をもとに記述）

5プロジェクトを実施し、水産・食産業の競争力強化のための各種取組を推進した。

- ・新規養殖研究会を通して、新たな養殖などの導入可能性について検討するとともに、市内漁業協同組合が行っている新規養殖試験の取組を支援し、**事業化に向けた取組が徐々に進んでいる。**
- ・漁業者の減少や高齢化が進む中、市内の漁業協同組合が新規漁業就業者に資機材整備及び生活支援を行う場合に要する経費に対して支援することにより、担い手育成の一助となった。

取組の状況や成果等を踏まえた上での課題を整理しています。事後評価として「この課題が妥当であるか、追加項目がないか等」を検証します。

課題

- ・新たな養殖の実証試験を行うための資金確保及び技術の確立に向けた研究開発等の取組の推進
- ・新規漁業就業者の就業支援制度の周知及び受入先の確保
- ・産学官連携交流促進支援事業による研究実施後の次の段階へつなげるための支援
- ・事業所と大学の共同研究課題のマッチング
- ・令和6年2月に「口腔保健用ゼリー」の**特定保健用食品の認定**を見込んでいるが、**新型コロナウイルス感染症や社会経済状況変化等の影響により、本格販売の先行きは不透明**

■進捗度評価 **B**

(理由)
 ・新たな養殖・蓄養の実証試験が**継続的**に行われたものの、加工原魚の確保を始め、養殖手法の確立に至るまでには**成果の検証等相応の時間を要することから**、**継続的な支援が必要である。**
 ・毎年、新規漁業就業者を確保できている

上の進捗度に至った理由について記載しています。事後評価として「この理由が妥当であるか等」を検証します。

今後の方向性

- ・新規養殖研究の推進
- ・新規養殖実証試験への支援
- ・新規養殖業者の定着促進

左の課題に対する改善策や方策等について、今後の方向性として記載しています。事後評価として「今後の方向性が妥当であるか等」を検証します。